ティアニー先生の臨床入門

ローレンス・ティアニー，松村正巳　著

『ティアニー先生の臨床入門』が，前作の『ティアニー先生の診断入門』の続編として，ティアニー先生と松村正巳先生の共著で出版された。前作と同様に，名医の診断へのアプローチがわかりやすく解説されている。実は，英語のタイトルは，“Principles of Dr. Tierney's medical practice”であるので，「ティアニー先生の臨床現場での原則」とでもいうべき内容である。

医師は，病態が理解できないいわゆる「むずかしい患者」「わけのわからない患者」を目の前にしたときにどのように問題を解決するのであろうか？　その解決方法にのっとって，経験が蓄積されれば，比較的短期間に名医あるいは良医になれるはずである。残念ながらハリソンのテキストブックを精読しても，UpToDateをいくら調べても，PubMedでいくら検索しても答えは得られない。本書は，ずばり，その解答を示している。

第1部と第2部を要約すると，4つのキーワードを抽出することができる。1つは経験（experience）であり，もう1つはその対極の根拠（evidence）である。さらには，病態生理に代表される科学的推論（logic）であり，最後の1つは経験に裏打ちされたパール（clinical pearl）である。これらの4つをどのような臨床場面で，どのようにして使用するのかをケーススタディーで目の当たりにすることができる。

私も33年間医療に従事してきて，また教える立場になって気が付くことは，臨床医学は，先輩から代々教わった世代を超え受け継がれた縦糸のような知識・経験と書物あるいはインターネットによる同世代の横糸の知識・経験が織りなす模様でできている。縦糸と横糸がうまく混ざり合って美しい織物を作っているのである。ティアニー先生も同じようなことを話している。

さらに，重要なことは，若い医師が経験のある師匠（メンター）を目標にすることは好ましいことであるが，常に師匠を乗り越えてようやく一人前であり，その努力を惜しまないことが重要であるということが書いてある。

名医がどのようにして形成されるのか，若い医師も経験のある医師もぜひ一読することをお勧めする。

愛知医科大学教授・内科学　今井裕一

A5　頁164　2010年
定価3,150円（本体3,000円＋税5%）
［ISBN978-4-260-01177-8］医学書院刊

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2011

2026/09/29 08:13:26